



会社概要 2023REPORT





弊クラブは「県民に元気を」、「子ども達に夢を」、「熊本に活力を」をクラブ理念として、設立以来活動が続けております。

2023シーズンは大変苦しい戦いが続きましたが、最終的にはリーグ戦14位。天皇杯JFA第103回全日本サッカー選手権大会においては、J1の3クラブに勝利してクラブ史上初ベスト4にコマを進めることができました。残念ながら準決勝で敗れて3位に終わりましたが、チームならびにクラブにとって大きな自信を得ることができた大会となりました。

2024シーズンもチームの指揮は大木武監督にお任せし、攻守にアグレッシブなロアッソスタイルのサッカーを追求しながら、J1の舞台に向かってクラブ一丸となってチームと経営の強化に取り組んで参ります。

また、弊クラブは、「日本一地域に根差したクラブづくり」をクラブビジョンのひとつとしており、熊本県内各所でのイベント出演や、サッカー教室開催等の地域貢献活動にも力を入れております。加えて、地域社会と一体となって、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活を楽しめる町づくりのお手伝いをする、ホームタウン活動も積極的におこなっております。

この様な活動をご理解の上、皆様におかれましては2024シーズンもさらなるご支援、ご声援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



株式会社 アスリートクラブ熊本
代表取締役社長

藤本 靖博



会社名 株式会社 アスリートクラブ熊本

◆ 設 立	2004年(平成16年)12月21日
◆ 資 本 金	3億8,050万円
◆ 住 所	〒862-0954 熊本市中央区神水2丁目10-10
◆ 電話番号	096-283-1200

役 員

代表取締役社長	藤本 靖博	
取締役ゼネラルマネージャー	織田 秀和	
取締役(非常勤)	坂本 正	(ロアッソ熊本持株会 理事長)
取締役(非常勤)	高橋 光宏	(高橋酒造株式会社 代表取締役社長)
取締役(非常勤)	河田 信之	(一般社団法人熊本県サッカー協会 会長)
監査役(非常勤)	宮田 房之	(宮田総合法律事務所 弁護士)
会計参与(非常勤)	西本 寛	(西本会計事務所 税理士)
(2023年12月31日現在)		

クラブプロフィール

	チーム名 ロアッソ熊本 熊本を象徴する「阿蘇山」や「火の国熊本」から、熊本の燃える情熱を表す赤のイタリア語「ロッソ」と、「エース」「唯一の」を意味するイタリア語「アッソ」を組み合わせた造語で、Jリーグでもエースとなりうるナンバー1のチームを目指す決意をチーム名に込めています。
	エンブレム 「馬」は選手・若者の象徴。「盾」はサポーター：盾の形は熊本県のマークから発想しています。「馬」は熊本の伝統や自然を象徴する動物です。暴れ馬と、それを盛り上げる祭りの参加者を、そのままサッカー選手とサポーターに重ね合わせました。また、大阿蘇の草原を走る馬は、フィールドを駆ける選手に見立てています。
	チームマスコット ロアッソくん 年齢：小学校高学年 背番号：123 出身地：ヒノクニ 将来の夢：ワールドカップ出場

	クラブスピリッツ 絆180万馬力 ロアッソ熊本はこれまでも、そしてこれからも、ファン・サポーターの皆様、株主・パートナー企業の皆様、ロアッソ熊本に関わるすべての皆様と「絆」を結び、共に歩んでいこうと、「絆180万馬力」をクラブスピリッツとして掲げています。
---	--

	2024シーズンスローガン「跳べ」 チーム・クラブがJ1昇格・J1仕様となるために、情熱を持ちながら、地道にクラブの力をつけていき、自分たちの足で、力で、大きく跳び上がりたい、という意志をこめています。
---	---

	20周年メモリアルシンボル ロアッソ熊本は、2004年のクラブ設立より、2024年シーズンで20年目のシーズンを皆さんとともに闘うこととなります。これまで皆さんとロアッソ熊本が築き上げてきた20年を振り返りながら、これからの20年も一緒に闘っていく、という想いが込められています。
---	--

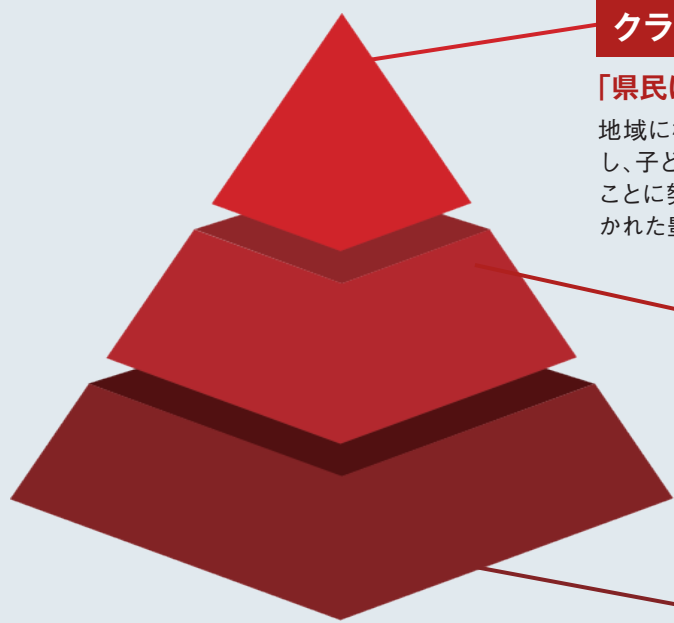


2004	9月 12月	「熊本にJリーグチームを」県民運動推進本部設立 株式会社アスリートクラブ熊本を設立
2005		「ロッソ熊本」を編成 第33回 九州サッカーリーグ 参戦 【2005年戦歴】 第33回 九州サッカーリーグ 優勝 第1回 アデル・カーズ杯 優勝 第9回 NHK杯(天皇杯熊本県予選) 優勝 第85回 天皇杯 1回戦敗退 第41回 全国社会人サッカー選手権 優勝 第29回 全国地域リーグ決勝大会 3位 =JFL昇格=
2006		第8回 日本フットボールリーグ(JFL) 参戦 Jリーグ準加盟クラブ承認 【2006年戦歴】 第8回 日本フットボールリーグ 5位 第10回 NHK杯(天皇杯熊本予選) 優勝 第86回 天皇杯 3回戦敗退
2007	12月	第9回 日本フットボールリーグ(JFL) 参戦 J2入会承認 【2007年戦歴】 第9回 日本フットボールリーグ 2位 第87回 天皇杯 1回戦敗退
2008		『スローガン：Action&Communication』 JリーグDivision2 参戦 【2008年戦歴】 JリーグDivision2 12位(15チーム中) 第88回 天皇杯 3回戦敗退
2009		『スローガン：絆～Keep&Change～』 【2009年戦歴】 JリーグDivision2 14位(18チーム中) 第89回 天皇杯 2回戦敗退
2010		『スローガン：絆～STRONG WILL 強い意志～』 【2010年戦歴】 JリーグDivision2 7位(19チーム中) 第90回 天皇杯 3回戦敗退
2011		『スローガン：絆～be Real 実現～』 【2011年戦歴】 JリーグDivision2 11位(20チーム中) 第91回 天皇杯 2回戦敗退
2012		『スローガン：絆 ONE heart ～心をひとつに～』 【2012年戦歴】 JリーグDivision2 14位(22チーム中) 第92回 天皇杯 ベスト16
2013		『スローガン：絆 with us ～180万馬力～』 【2013年戦歴】 JリーグDivision2 19位(22チーム中) 第93回 天皇杯 3回戦敗退
2014		『スローガン：絆 My Hometown 180万馬力』 【2014年戦歴】 JリーグDivision2 13位(22チーム中) 第94回 天皇杯 2回戦敗退

2015		『スローガン：RISING 絆 180万馬力』 【2015年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 13位(22チーム中) 第95回 天皇杯 3回戦敗退
2016	4月	『スローガン：+ONE 絆 180万馬力』 熊本地震発生 震災によりスタジアムが救援物資の集積拠点となり 使用できず、日立柏サッカー場(千葉)、ノエビアス タジアム神戸(兵庫)、ベストアメニティスタジアム (佐賀)を借りてホームゲームを開催 7月 震災後初めて、うまかな・よかなスタジアムにて ホームゲーム開催 【2016年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 16位(22チーム中) 第96回 天皇杯 2回戦敗退
2017		『スローガン：光となれ！ 絆 180万馬力』 【2017年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 21位(22チーム中) 第97回 天皇杯 3回戦敗退
2018		『スローガン：飛翔』 震災後初めて、熊本市水前寺競技場にて ホームゲーム開催 【2018年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 21位(22チーム中) 第98回 天皇杯 2回戦敗退
2019		『スローガン：我心勝鍛』 初めてのJ3リーグでの戦い J3リーグ最多入場者数記録更新 16,027人 【2019年戦歴】 明治安田生命J3リーグ 5位(18チーム中) 第23回 熊本県サッカー選手権大会(天皇杯熊本県予選) 優勝 第99回 天皇杯 2回戦敗退
2020	3月 6月	『スローガン：繫続』 新型コロナウイルス感染症の影響によりJ3開幕戦延期 リモートマッチ(無観客試合)によるホームゲーム開催 【2020年戦歴】 明治安田生命J3リーグ 8位(18チーム中) 第100回 天皇杯 出場無し
2021	10月	『スローガン：闘え！』 クラブ新記録の7連勝を記録 【2021年戦歴】 明治安田生命J3リーグ 優勝(15チーム中) J2昇格 第101回 天皇杯 2回戦敗退
2022	10月	『スローガン：闘え！2022』 クラブ史上初J1参入プレーオフ進出 【2022年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 4位(22チーム中) J1参入プレーオフ決定戦進出・決定戦敗退 第102回 天皇杯 3回戦敗退
2023		『スローガン：挑め！高みへ』 【2023年戦歴】 明治安田生命J2リーグ 14位(22チーム中) 第103回 天皇杯 準決勝敗退(第3位)※過去最高成績



★私たちが目指すもの



クラブ理念

「県民に元気を」「子ども達に夢を」「熊本に活力を」
地域に根ざしたクラブとして、地域に生活する人々と共に発展し、子どもたちに夢と希望を、地域に誇りと感動をお届けすることに努め、クラブを軸としたコミュニティを築き、世界に開かれた豊かなスポーツ文化の創造に貢献します。

クラブビジョン

- ① 真っ赤で笑顔溢れるスタジアム
- ② J1へのチャレンジ
- ③ 世界に羽ばたく選手の育成
- ④ 日本一地域に根差したクラブづくり

●年度計画

★ロアッソ熊本 フットボールフィロソフィー

1 攻守においてイニシアティブを握る「アクションサッカースタイル」を追求する

- アグレッシブにゴールを目指す
- ボールを失ったら奪い返す
- 素早く攻守を切り替える
- いかなる状況でも最後まで走る、闘う、プレーする
- 勝負にこだわりフェアでひたむきにハードワークする
- 個々の力を結集して、チームのために闘う

2 長期的な視野にもとづき、自前で選手を育成する

- アカデミーにおける一貫指導により優秀な若年代選手を育成する
- 常に高いレベルを目指し、向上心に溢れる選手を育成する
- 自律、そして自立した選手を育成する
- 地域指導者とのネットワークを密にして、将来性のある有望選手を採用する

3 地域の人々に愛され応援される、そして地域に貢献できる存在となる

- サッカーを通じて地域の人々と夢や感動を共有する
- サッカー選手である前に社会人としてふさわしい振る舞いをする
- 常に自己研鑽に努め、青少年の手本となる選手になる
- 自ら積極的にボランティア活動に取り組む

★The Pride of ROASSO

～赤い魂を持った戦士の誇り～

“Always Positive”

- 常に前向きに！自分の力でどうにかなることに専心
- 弱音を吐かない、泣き言を言わない…寄せ付けない！
- サッカーを始めた頃の純粋な楽しさを忘れない(Enjoy)

“Challenge”

- 積極的にチャレンジ。常に向上心を持つ
- 躊躇するな！失敗を恐れるな！積極的なミスは互いに認め合おう

“Our Team”

- このチームは皆の、自分たちのチーム、「誰かが何かをしてくれる」ではない
- 「チームが勝つために」何をすべきか…自分で考え自分でプレーする

“Independent”…自立

- Professionalとして24時間をデザイン
- チーム内のコミュニケーション(挨拶はその第一歩)

“Winning Mentality”

- 「チームが勝つために」…全力を尽くす“勝利へのこだわり”
- これくらい、この1回くらい、自分一人くらい…全てを断ち切る
- 最後は自分自身との戦い…苦しいときこそ互いに励まし合う



売上高等推移／第1期～第19期





2022 Jクラブ売上高とチーム人件費/協賛収入/入場料収入の比較

▶2022年J1在籍全18クラブ経営状況 ※売上高降順

	売上高	トップチーム人件費	売上高比率	協賛収入	売上高比率	入場料収入	売上高比率	最終順位
浦和	8,127	2,853	35.1%	4,048	49.8%	1,439	17.7%	9
川崎F	6,979	3,018	43.2%	3,235	46.4%	1,048	15.0%	2
横浜FM	6,481	3,415	52.7%	1,866	28.8%	1,019	15.7%	1
神戸	6,365	4,839	76.0%	2,146	33.7%	827	13.0%	13
鹿島	6,116	2,998	49.0%	2,608	42.6%	801	13.1%	4
名古屋	6,091	2,817	46.2%	3,737	61.4%	698	11.5%	8
G大阪	5,969	2,837	47.5%	2,088	35.0%	701	11.7%	15
FC東京	5,274	2,538	48.1%	2,559	48.5%	893	16.9%	6
清水	5,087	2,209	43.4%	3,016	59.3%	723	14.2%	17
柏	4,632	3,188	68.8%	3,029	65.4%	482	10.4%	7
C大阪	4,216	2,043	48.5%	2,284	54.2%	696	16.5%	5
広島	4,017	2,320	57.8%	1,702	42.4%	405	10.1%	3
札幌	3,605	1,814	50.3%	1,488	41.3%	630	17.5%	10
京都	3,288	1,706	51.9%	1,898	57.7%	573	17.4%	16
磐田	3,232	1,304	40.3%	1,830	56.6%	348	10.8%	18
福岡	2,829	1,677	59.3%	1,202	42.5%	464	16.4%	14
鳥栖	2,761	1,088	39.4%	1,046	37.9%	557	20.2%	11
湘南	2,477	1,191	48.1%	1,310	52.9%	370	14.9%	12
J1平均	4,864	2,436	50.1%	2,283	46.9%	704	14.5%	

(金額単位:百万円)

▶2022年J2在籍全22クラブ経営状況 ※売上高降順

	売上高	トップチーム人件費	売上高比率	協賛収入	売上高比率	入場料収入	売上高比率	最終順位
横浜FC	2,861	1,753	61.3%	1,230	43.0%	215	7.5%	2
仙台	2,666	1,062	39.8%	1,754	65.8%	316	11.9%	7
大宮	2,638	583	22.1%	1,542	58.5%	229	8.7%	19
千葉	2,638	857	32.5%	1,700	64.4%	225	8.5%	10
新潟	2,539	756	29.8%	928	36.5%	596	23.5%	1
徳島	2,222	1,171	52.7%	1,342	60.4%	135	6.1%	8
山形	2,192	787	35.9%	868	39.6%	234	10.7%	6
東京V	2,116	490	23.2%	560	26.5%	154	7.3%	9
長崎	2,064	1,350	65.4%	1,335	64.7%	165	8.0%	11
町田	1,919	744	38.8%	1,479	77.1%	84	4.4%	15
岡山	1,882	579	30.8%	788	41.9%	237	12.6%	3
大分	1,827	1,070	58.6%	674	36.9%	319	17.5%	5
琉球	1,599	368	23.0%	219	13.7%	37	2.3%	21
甲府	1,564	640	40.9%	749	47.9%	189	12.1%	18
山口	1,118	425	38.0%	549	49.1%	123	11.0%	16
栃木	1,041	305	29.3%	546	52.4%	116	11.1%	17
水戸	1,024	346	33.8%	507	49.5%	90	8.8%	13
熊本	978	301	30.8%	403	41.2%	157	16.1%	4
秋田	877	256	29.2%	404	46.1%	48	5.5%	12
金沢	863	325	37.7%	329	38.1%	63	7.3%	14
群馬	717	338	47.1%	344	48.0%	80	11.2%	20
岩手	672	348	51.8%	357	53.1%	35	5.2%	22
J2平均	1,728	675	39.1%	846	49.0%	175	10.1%	

(金額単位:百万円)

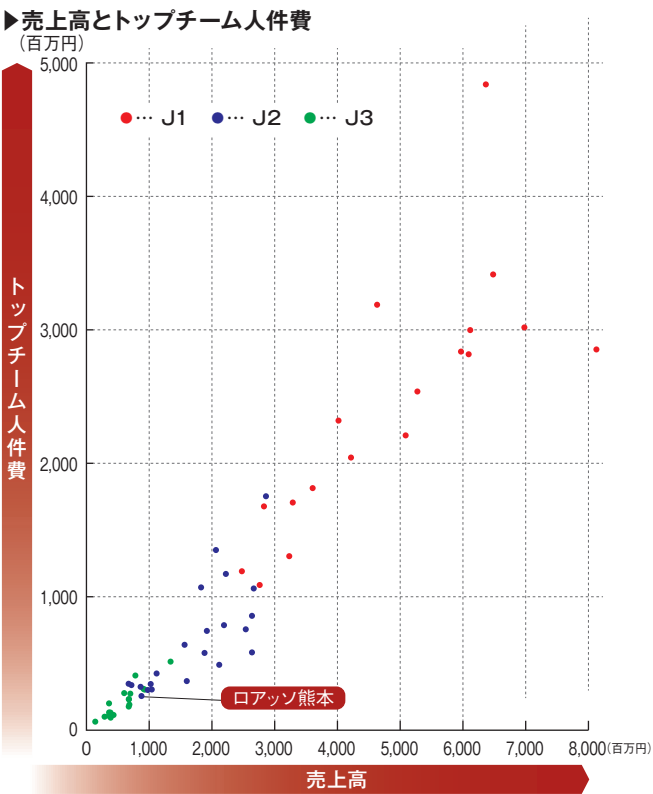
▶2022年J3在籍全18クラブ経営状況 ※売上高降順

	売上高	トップチーム人件費	売上高比率	協賛収入	売上高比率	入場料収入	売上高比率	最終順位
松本	1,510	512	33.9%	839	55.6%	274	18.1%	4
今治	1,045	304	29.1%	617	59.0%	34	3.3%	5
北九州	1,023	307	30.0%	494	48.3%	100	9.8%	13
岐阜	877	411	46.9%	466	53.1%	79	9.0%	14
愛媛	788	274	34.8%	351	44.5%	45	5.7%	7
いわき	770	192	24.9%	406	52.7%	32	4.2%	1
相模原	762	232	30.4%	427	56.0%	48	6.3%	18
鹿児島	759	232	30.6%	397	52.3%	41	5.4%	3
長野	758	177	23.4%	358	47.2%	61	8.0%	8
富山	677	278	41.1%	414	61.2%	44	6.5%	6
鳥取	486	114	23.5%	198	40.7%	32	6.6%	12
沼津	434	94	21.7%	230	53.0%	16	3.7%	15
福島	431	132	30.6%	249	57.8%	19	4.4%	11
讃岐	406	133	32.8%	196	48.3%	29	7.1%	17
藤枝	405	201	49.6%	297	73.3%	23	5.7%	2
八戸	401	108	26.9%	206	51.4%	10	2.5%	10
宮崎	325	101	31.1%	209	64.3%	23	7.1%	9
YS横浜	158	64	40.5%	89	56.3%	21	13.3%	16
J3平均	668	215	32.2%	358	53.6%	52	7.8%	

(金額単位:百万円)

▶2022年Jリーグ在籍全58クラブ経営状況

	売上高	トップチーム人件費	売上高比率	協賛収入	売上高比率	入場料収入	売上高比率
平均	2,372	1,079	40.3%	1,140	49.8%	301	10.5%



上記データは、Jリーグが公表しているJリーグ所属全58クラブの『2022シーズンJクラブ売上高とチーム人件費・協賛収入・入場料収入ならびにその割合』を示した表となります。

この表から見て分かるとおり、当クラブの2022年度売上高は978百万円となっており、J2リーグにおいては下位、さらにJ3リーグのチームと比較しても4番目の位置となります。

また一番右の図を見て分かるとおり、Jリーグ全体を見ても売上高とトップチーム人件費は、一定の相関関係にあります。概要としては、全カテゴリーにおいて、トップチーム人件費が高いクラブほど、リーグ戦成績では上位に位置し、低いクラブは降格圏内での厳しい戦いを強いられている現実も、データから読み取ることが

できます。

一方で、2022シーズン、ロアッソ熊本はJ2リーグ戦を過去最高成績の4位で終え、初めてJ1参入プレーオフ1回戦・2回戦を勝ち抜き、プレーオフ決定戦までコマを進めました。惜しくもJ1昇格とはなりませんでした、このクラブ経営規模でここまで勝ち上がることができたのは、稀有なことであり、売上や予算規模の多寡が成績に大きく影響する事は否めないと考えております。その為に、今後継続的に安定して上位で闘い、J1昇格を勝ち取るためには、クラブ収益を向上させることで、安定した基盤をつくる必要があることは言うまでもありません。

Jリーグクラブの収益は多岐に及びますが、その多くをパートナー企業様からの協賛金や入場料収入が占め

ています。中でもパートナー企業様からの協賛金は、平均して売上高の約50%を占める大変比重の高い収入項目です。当クラブにおいても2022シーズンにおいては約41%を占めています。引き続きパートナー企業様にとってより支援する意義の高いクラブへと成長するよう努力してまいります。

また、当クラブとしましては、より県民の皆様へ愛されるよう、サービス向上を図り、魅力あるイベント、スタジアムグルメの展開、さらにはクラブがフットボールフィロソフィーとして掲げる『アクションサッカー(本誌5頁参照)』を体感していただき、ロアッソ熊本のサッカーを通じて地域の方々と夢や感動を共有して頂き、一人でも多くの方がスタジアムに行きたいと思っただけのように努めてまいります。

最後に、当クラブでは2023年に10年後を見据えた中長期計画を作成しました。クラブが安定して成長していくために10年後のクラブ予算をJ2トップクラスに上げていく計画をベースとしております。高い目標ではございますが、そこに向けて逆算し、今何をすべきなのか、何が不足しているのかを考え新たな取り組みにもチャレンジしております。

クラブが目指す道をパートナー企業の皆様、そしてファン・サポーターの皆様へしっかり共有してお伝えしていく事。支援の輪を深く、そして広く拡大していくためにも、将来に向けた夢を皆様と共有していく事がクラブにとって最も大切なことだと考えております。

SEASON RESULTS

J2 14位

全試合成績グラフ

順位

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22



今季初勝利は昨年同様第3節！



GWはホーム2連勝！



3得点に加えGK田代のファインプレーもあり、
しっかり守って勝利！



4発快勝！



入場者数1万人超えの九州ダービー！
悔しい敗戦



この勝利でJ2残留を決定づけた



長いトンネルを抜け、リーグ戦14試合振りの勝利！

▶ 2023 明治安田生命J2リーグ順位表

順位	クラブ名	勝点	試合数	勝	分	敗	得点	失点	得失点
1	FC町田ゼルビア	87	42	26	9	7	79	35	44
2	ジュビロ磐田	75	42	21	12	9	74	44	30
3	東京ヴェルディ	75	42	21	12	9	57	31	26
4	清水エスパルス	74	42	20	14	8	78	34	44
5	モンテディオ山形	67	42	21	4	17	64	54	10
6	ジェフユナイテッド千葉	67	42	19	10	13	61	53	8
7	V・ファーレン長崎	65	42	18	11	13	70	56	14
8	ヴァンフォーレ甲府	64	42	18	10	14	60	50	10
9	大分トリニータ	62	42	17	11	14	54	56	-2
10	ファジアーノ岡山	58	42	13	19	10	49	49	0
11	ザスパクサツ群馬	57	42	14	15	13	44	44	0
12	藤枝MYFC	52	42	14	10	18	61	72	-11
13	ブラウブリッツ秋田	51	42	12	15	15	37	44	-7
14	ロアッソ熊本	49	42	13	10	19	52	53	-1
15	徳島ヴォルティス	49	42	10	19	13	43	53	-10
16	ベガルタ仙台	48	42	12	12	18	48	61	-13
17	水戸ホーリーホック	47	42	11	14	17	49	66	-17
18	いわきFC	47	42	12	11	19	45	69	-24
19	栃木SC	44	42	10	14	18	39	47	-8
20	レノファ山口FC	44	42	10	14	18	37	67	-30
21	大宮アルディージャ	39	42	11	6	25	37	71	-34
22	ツエーゲン金沢	35	42	9	8	25	41	70	-29

★… J1自動昇格枠 ★… プレーオフ出場圏 ★… J3降格枠

第 1 クール						第 2 クール						第 3 クール						第 4 クール						第 5 クール						第 6 クール						※ 第 7 クール					
1節	2節	3節	4節	5節	6節	7節	8節	9節	10節	11節	12節	13節	14節	15節	16節	17節	18節	19節	20節	21節	22節	23節	24節	25節	26節	27節	28節	29節	30節	31節	32節	33節	34節	35節	36節	38節	37節	39節	40節	41節	42節
2月19日	2月26日	3月5日	3月11日	3月19日	3月25日	4月2日	4月9日	4月12日	4月16日	4月21日	4月29日	5月3日	5月7日	5月13日	5月17日	5月21日	5月28日	6月3日	6月11日	6月17日	6月25日	7月2日	7月5日	7月9日	7月16日	7月24日	7月29日	8月6日	8月12日	8月19日	8月27日	9月3日	9月10日	9月16日	9月24日	9月27日	9月30日	10月22日	10月28日	11月3日	11月12日
A	H	H	A	H	A	H	H	A	A	H	A	H	H	A	H	A	H	A	H	A	A	H	A	A	A	H	A	H	A	A	H	A	A	A	A	A	A	A	A	A	H
栃木SC	ブラウブリッツ秋田	大宮アルディージャ	レノファ山口FC	V・ファーレン長崎	東京ヴェルディ	徳島ヴォルティス	ツエーゲン金沢	ファジアーノ岡山	ジュビロ磐田	ジェフユナイテッド千葉	FC町田ゼルビア	ザスパクサツ群馬	ヴァンフォーレ甲府	大分トリニータ	ベガルタ仙台	水戸ホーリーホック	モンテディオ山形	いわきFC	清水エスパルス	藤枝MYFC	ジュビロ磐田	東京ヴェルディ	ザスパクサツ群馬	ブラウブリッツ秋田	大分トリニータ	ファジアーノ岡山	V・ファーレン長崎	水戸ホーリーホック	ツエーゲン金沢	モンテディオ山形	いわきFC	ジェフユナイテッド千葉	藤枝MYFC	大宮アルディージャ	栃木SC	徳島ヴォルティス	ベガルタ仙台	FC町田ゼルビア	清水エスパルス	ヴァンフォーレ甲府	レノファ山口FC
△1-1	●0-1	○3-0	○3-1	●0-2	●0-3	△1-1	○3-1	△0-0	△1-1	△2-2	●1-2	○2-0	○2-0	△1-1	●0-1	○3-0	●0-3	○4-0	●0-1	○4-0	●0-2	●0-1	△1-1	△1-1	●1-3	●1-2	●1-4	△0-0	△1-1	●0-2	●2-4	●0-1	●0-2	○3-0	○3-0	○1-0	●0-1	●0-3	○3-1	●0-2	○3-1
石川		島村平川土信田	石川松岡江崎			平川	石川江崎オウンG		松岡	江崎栗飯原	石川	平川栗飯原	石川石川	石川		石川石川上村		栗飯原大西大本平川		大本島村栗飯原松岡			松岡	竹本		黒木	竹本	平川		オウンG		オウンG平川		松岡オウンG江崎	伊東			阿部平川伊東		上村伊東東山	
8	18	9	5	8	13	14	11	12	13	13	14	12	11	11	12	11	12	11	13	8	11	14	12	11	11	14	15	14	14	17	20	20	20	18	17	18	16	18	16	16	14
1		4,994	4,547		7,874		4,166	5,135			3,339		4,193	3,900		2,884		10,623		6,484		4,696	3,785			10,046	2,981		4,553			3,725		17,805		5,491		9,895			10,726

※天皇杯準決勝進出のため、日程変更がありました



天皇杯 JFA 第103回全日本 サッカー選手権大会

第3位 ※過去最高戦績

2回戦 6月21日水 於：えがお健康スタジアム
来場者数：1,455人

ロアッソ熊本 **2-2** FC琉球
(J2) 【PK 5-4】 (J3)



3回戦 7月12日水 於：駅前不動産スタジアム

ロアッソ熊本 **4-3** サガン鳥栖
(J2) (J1)



4回戦 8月2日水 於：えがお健康スタジアム
来場者数：6,286人

ロアッソ熊本 **2-0** FC東京
(J2) (J1)



準々決勝 8月30日水 於：えがお健康スタジアム
来場者数：10,512人

ロアッソ熊本 **1-1** ヴィッセル神戸
(J2) 【PK 4-3】 (J1)



準決勝 10月8日水 於：三協フロンティア柏スタジアム

ロアッソ熊本 **0-4** 柏レイソル
(J2) (J1)



天皇杯
初のベスト4

効率的な営業活動と新たな商品の創造を模索／営業部

——営業部の業務と概要、2023シーズンの業績について教えてください。

パートナー協賛の新規獲得と既存パートナー企業の対応業務、パートナー企業に関連するイベントの調整や協同の取り組みを5名のスタッフで担当しています。2023年は協賛金5億円、協賛社数450社という2つの目標を掲げましたが、ユニフォームの袖、パンツ、パンツ裏の3つのカテゴリーを売りきれなかったこともあり、協賛金は目標をやや下回りそうです。一方で協賛社数は460社と、目標をクリアできる見込みです。ホームゲーム会場でパートナー企業の呼び込みを行ったことや、ホームページに設けた問い合わせフォームから契約に至るケースが多かったことで、過去最高の71社と新規パートナー契約を結ぶことができました。天皇杯でのチームの躍進も後押しになりましたが、育成クラブだという認識が広がり、クラブの成長に期待して応援してくれる方が増えたように感じます。また、ロアッソ熊本を活用してブランディングを行うことで採用面やイメージ向上といったメリットが得られると考える企業が増えている印象です。ロアッソ熊本が以前に増してパブリックな存在になってきた証左と言えるのではないかと思います。

——現状の課題はどんなものでしょうか。

2024年は協賛金6億円を目標にしていますが、それを達成したとしても、J2全体の平均である8億4000万円を下回るのが現実です。商品設計や価格を見直してご案内していますが、高額商品の効率的な営業と合わせ、センターサークルバナーやビジョンを活用した新たな媒体を生み出すことも課題だと捉えています。

——具体的な施策はありますか？

これまで、5人のスタッフで均等にパートナー企業を分担していましたが、昨年から担当を見直し、それぞれが受け持つパートナー企業の件数を調整して、新規の営業に動きやすいようにしています。そのほか、社内で使用しているクラウドシステム『kintone』内で、管理システムアプリを導入し、営業活動や訪問状況のプロセスを見える化して効率化につなげています。これらの取り組みの成果は、今シーズン以降に現れてくると思います。また、TSMCの進出を受け、関連企業へのアプローチにも注力しています。フラッグの配布やコレオグラフィの企画など、スタジアムを盛り上げるようなパートナー企業のアクティビティが増え、協賛の形も変化してきました。ホームタウン推進部と重なる部分もありますが、広告協賛の価値をさらに高めるために、今後はパートナー企業と一緒に地域課題の解決につなげるような取り組みにも力を入れていきたいと考えています。



営業部長
片山 良二

プロフィール

阿蘇郡高森町生まれ。真和高校～青山学院大学卒業。塾講師などを経験した後、2008年1月に入社。以来、一貫して営業を担当。



事業部長
岩水 香織

プロフィール

菊池郡菊陽町出身。熊本北高～都留文科大卒業。イベント会社勤務を経て、2005年2月に入社。以来、広報業務を中心に運営なども担当。



社内各部門の現状と課題

試合運営や演出、広報体制を見直し、付加価値を提供／事業部

——事業部の業務内容についてと、昨年の取り組みについて教えてください。

チケットの企画や販売、ホームゲーム運営とアウェイゲーム時の対応、メディア対応、公式サイトやSNSを活用した情報発信が主な業務で、5名のスタッフで担当しています。昨年はチケットデジタル化の推進に注力し、LINEとの連携などを実施したほか、若い年代のファン、サポーターを増やす狙いでTikTokを始めました。また、2023年は前年のホーム最終戦とJ1参入プレーオフで試験的に行ったパーク&バスライドを年間通して実施しました。

——どのような効果があったのでしょうか。

LINEミニアプリの導入で招待券をQRチケット化でき、来場者数の予測が立てやすくなり、在庫管理の正確性も高まりました。TikTokは若いスタッフが担当し、選手の横顔や火の国もりあげタイで訪問した市町村の見どころなど、従来のSNSで行うインフォメーションの発信とは異なる情報を投稿しています。練習見学でも若い方が増え、サッカーファンではない方にも興味を持っていただく効果があったと感じます。パーク&バスライドを実施したことは、平均入場者数が前年比で約2000人増えた理由のひとつでもあったと思います。また、チームが天皇杯で好成績を収めたこともあり、メディアでの露出も増えました。

——現状の課題は。

安全に観戦いただく環境を作るために、セキュリティ面を充実させることと、入場料収入増に向けた施策・部内業務整理が課題だと考えています。社内で共有する事業計画策定方針に則って、新たな取り組みも検討しています。

——具体的にはどんなことを検討していますか？

チケット収入の拡大と試合運営の見直し、広報体制の拡充が主な目標です。2024年シーズンは20チームとなり、ホームゲームが2試合減りますが、入場料収入は2億900万円を目標にしています。これを達成するために席割りを変更し、S席の一部を指定席にして料金を改定する他、魅力ある付加価値を提供できる企画チケットの販売を検討します。アクセス対策はパーク&バスライドも含めてさらに強化し、セキュリティ面は専門の業者に委託します。試合運営については、イベントやパートナー企業の挨拶をウォーミングアップ前に移すなど、スタジアムの雰囲気盛り上げる演出を充実させ、「試合を見にきて楽しかった」と感じていただけるような環境を作ることに努めていきたいと思っています。

クラブ職員の社会的地位向上も視野に、労働環境を改善／企画総務部

——企画総務部とは、どんな業務を担う部署でしょうか。

主な業務は現預金出納事務等の経理処理と、備品や社用車の管理、労務管理など社内に関するもので、5名のスタッフが在籍しています。企画総務部は営業部などとは違って数字の目標を出せませんので、当面は社内規定の整備と社内業務の円滑化、資金面では内部留保の拡大を目標にしています。

——具体的にはどのような取り組みを行っているのでしょうか。

2022年の年末からクラウドシステム『kintone』を導入し、業務の円滑化を進めてきました。それまでは売上の管理や支払い請求の決裁を紙ベースで行っており、完結するのに数日かかっていたものが、早ければ1～2時間で決裁できるようになったほか、出張時の仮払いや経費精算といった書類も電子化したことで、業務全体が円滑になっています。その他、就業規則などの社内ルールの見直しを暫行し、有給休暇を取得しやすくするなど、労働環境の改善を図っています。内部留保の拡大については、ただコストを抑えるのではなく、費用対効果を意識しつつ、収益につながる出費は惜しまないという考えのもとで実行に落とし込んでいます。また、2023年は金融機関からの借入状況などについても効果を検証しながら借り換えるなど行いました。

——現状の課題はありますか。

社内全体で、原価管理、原価計算についての意識の浸透が不十分だと感じる面があります。費用対効果の点では、多数上がってくる稟議の中でも具体的な成果が見通せないものが、本当に必要かどうか精査しています。規則の改善に努めていますが、実際の労務形態と乖離している部分もあるため、引き続き改善していく必要があります。

——2024年の目標や取り組みについて聞かせてください。

クラブの歴史の中では、資金面で苦労した時期もありました。そうしたことが再度起きないよう、各部署の部門長が判断する前のフィルター役としての情報提供を意識しつつ、必要時には惜しまず出費できるような体制を整えたいと思います。加えて、社内規程の整理や部門間の横のつながりの強化、内部統制の円滑化を通して、社員が末永く働ける職場を作ることで、クラブのフロントスタッフという仕事の社会的地位が高まるよう、努力していきたいと思っています。

「アンプとボンド」の役割で仲間を増やす／ホームタウン推進部

——ホームタウン推進部の業務内容について教えてください。

2021年に発足して以来、地域とロアッソ熊本をつなぎ、またホームゲームに来場いただくお客様を増やす2つの軸で、3名のスタッフと「ロアッソ熊本をJ1へ！」県民運動推進本部とともにホームタウン活動に取り組んでいます。クラブが行う活動の全てを「ホームタウン活動」と捉えて、「仲間を増やすこと」をコンセプトに、Jリーグが行っている「シャレン！」(社会連携)のようにロアッソ熊本を使って地域課題の解決につなげるものです。「協賛してください」「チケットを買ってください」とお願いして応援していただくのではなく、私たちと一緒に活動を通じて地域を盛り上げたり、課題を見つけて改善したりすることで、今まで関わりがなかった皆さんと仲間になること、それをきっかけに応援していただくようになるのが理想です。

——具体的な活動例にはどんなものがありますか？

2023年の活動の中では、熊本市の高齢者介護予防事業のひとつとして実施した「ロアッソウェルネスプログラム」が大きなものですが、その他にも、スタジアム周辺での昆虫採集や、ホームゲームでのミニ動物園の開催など、行政や自治体、省庁、各種団体の方々と様々な活動を行いました。こうした取り組みは私たちだけでできることではなく、仲間になっていただいたことで実現できたと思います。最近よく、「アンプ(増幅機)とボンド(接着剤)」ということを社内外でお話しています。ロアッソ熊本がアンプとなって一緒に活動する皆さんの思いを広く発信し、それによって多くの人や物事が結びつく、ボンドのような役割を果たしていかなければいけないと思っているからです。こうしたホームタウン活動はクラブに直接お金をもたらすものではありませんし、目に見える効果は測れないものです。しかし、仲間を増やすには欠かせないものだと思っています。

——現状の課題と今後の展望は。

ロアッソ熊本の存在は知られていても、ホームタウン活動についてはまだまだ知られていないと感じます。仲間を増やすには活動の機会を増やし、その質を高めることが必要ですが、地域の皆さんや行政の方たちがロアッソ熊本に何を望み、どんな役割を期待されているのか、よく知らなくてはなりません。そのためにも地域の皆さんともっとコミュニケーションを取ることが必要です。その中から、必ず活動のヒントが見つかると思います。今年はクラブが誕生して20周年、記念事業を企画して、スタジアムに来場する方を増やしたいですね。



ホームタウン推進部長
古賀 亮

プロフィール

福岡県柳川市生まれ。東海大学農学部卒業後、JICA職員として西アフリカで地域開発に取り組む。2005年12月に入社し、営業部、グッズ・チケット担当部署などを経て、2021年より現部署。



企画総務部長
濱崎 照和

プロフィール

阿蘇郡小国町生まれ。小国高校卒業後、県内の税理士事務所で約30年勤務。退職後、2022年7月に入社。

スポンサーシップから パートナーシップへ

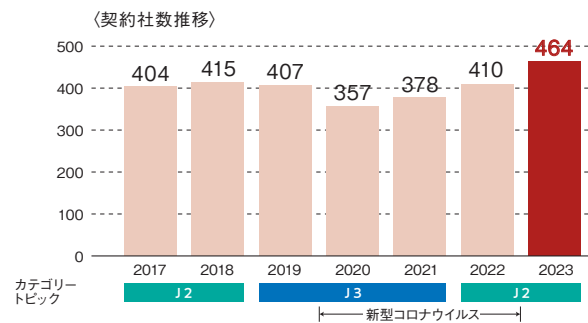
2023シーズンは県内外問わず約460社の企業・団体・個人様よりご支援をいただきました。これまで一方的なご支援依頼でしかなかったスポンサーシップを、今後は私達が持つファンやサポーター、自治体などのステークホルダーをパートナー企業に引き寄せ、繋ぎ、それを拡大していくプラットフォームの役割として機能させることを目標としています。看板掲出などの露出媒体としてのみならず、様々な手法で有効にパートナー企業名の訴求や商品のPR媒体に役立ててもらおうなど、より効果的にパートナーの課題解決に貢献できる施策提案を目指すものです。またパートナー企業とクラブがもつ双方の強みで連携し、地域における社会問題の解決に共に取り組むなど、Jリーグクラブでなければ実現できないようなシナジー効果を発揮した真のパートナーシップ形成を目指しています。

パートナー契約社数

2023シーズン実績:

464社

(2024年1月31日現在)



事例紹介

CASE 01 パートナー企業によるスタジアムアクティビティ

ホームゲーム会場を活用したパートナー企業によるPR活動の重要性は年々増加しています。コンコースエリアでのパートナー企業による商品販売会、サンプリング提供やアンケート取得に伴う抽選会の実施など、多様なアイデアでスタジアムイベントを華やかなものにしています。

毎試合一定の入場者数を安定して動員し、クラブへの愛着が強いサポーターやファンが集うこのスタジアムでPRできる機会は、パートナー企業の皆様にとっても有効な手段の一つであると高く評価されています。



CASE 02 パートナー企業と協同での地域貢献事業

昨今、企業の活動の目的は、利潤の追求のみならず「自然環境への配慮」「社会的弱者の救済」「資源やエネルギーの保護」「コンプライアンスの順守」など多様な価値が求められるようになってきました。そのような状況の中、ロアッソ熊本と連携し共に社会問題や地域課題の解決に取り組む事例も増えてきました。パートナー企業とクラブが連携して活動を行うことで、企業単独で行うよりも幅広くクラブOUNDメディアや各報道メディアを通じて情報が発信されます。

より効果的に地域の課題を訴求し、支援の輪の拡大につなげることに寄与できること、プロスポーツクラブの可能性は年々広がっています。



CASE 03 パートナー企業との商品開発

ロアッソ熊本のロゴ・エンブレムを活用した商品開発の事例が増えています。

この商品化権利は、熱いファン・サポーターに支えられたクラブのロゴマークを掲載することでの訴求効果、またロゴの利用を行うことで商品の売上の一部がクラブの強化費に還元されるため、企業・個人の方々がサービス利用及び商品購買の動機付けにつながる仕組みとなっています。

ロアッソ熊本にとっても、ロゴ・エンブレムがホームタウン区域で日常的に見られ、また強化費として支援金をいただけるため、これからも注力していきたい仕組みと考えています。



CASE 04 ロアッソ熊本を活用したアクティビティ

パートナー企業が行うイベントや社内行事への派遣業務を行っています。

企業イベントへの子ども達が楽しめるキックターゲットなどの遊具の設置、またトップチーム選手を派遣してイベントに参加するなど、パートナー企業のイベントを盛り上げるための活動にも力を入れています。

またロアッソ熊本では、アカデミー部門においてサッカーの普及を行う部署があり、県内各地に広くコーチを派遣してサッカー教室を実施し競技普及に努めています。こういったサッカー教室を、パートナー企業の社員のお子様向けに行う需要も増加傾向にあります。



CASE 05 クラブと共にスタジアムの応援雰囲気を醸成

2023シーズン、ロアッソ熊本のホームゲームには平均6,000人以上の方々にご来場いただきました。ファン・サポーターが応援する雰囲気は、ピッチで闘う選手たちへの力強い後押しとなっています。近年パートナー企業とファン・サポーターが連携し、会場の雰囲気づくりを創出する取り組みも実現しています。

コレオやフラッグによる演出、鳴り物での応援統率など、スタジアム全体の一体感を醸成する様々なアイデアをパートナー企業が考案し、クラブがサポーターとの橋渡し役を担っています。



「ホームタウン」と「ホームタウン活動」とは？

Jリーグでは、Jクラブの本拠地を「ホームタウン」と呼んでいます。「Jリーグ規約」には、Jクラブはホームタウンと定めた地域で、その地域社会と一体となったクラブづくりを行いながら、サッカーの普及、振興に努めなければならないことが記されています。つまり、ホームタウンとは「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することが出来る町」を意味しています。

ロアッソ熊本では、「熊本市」を「ホームタウン」と定めていますが、県内全域を活動区域とし、全ての県民のみなさまに愛されるクラブとなるために、地域と心を通わせるための様々な活動を実践しています。



「熊本」の誇りの中に加わる

ロアッソ熊本を「私たちのもの」という所有格でとらえてもらうこと



「くまもとブランド」の発信

ロアッソ熊本公式サイト、公式SNS、またスタジアムなどを活用し、熊本県の魅力「くまもとブランド」を発信しています。

▶公式サイト、公式SNSを活用した発信

・ロアッソくんが県内各地を訪問「くまもとブランド発信プロジェクト」

▶火の国もりあげタイ！プロジェクトによる対象自治体の紹介 (2023年実施市町村：天草市、菊陽町、錦町、球磨村)

・各自治体の担当選手が名所訪問・紹介
・ホームゲームにおける「タウンディ」の実施（観光ブース、物産出店、PRイベントなど）

▶スタジアム（ホーム・アウェイ）を活用した発信

・試合開催時、物産出店・観光PRブースなどの設置
・アウェイ会場での観光PRリーフレット等の配布活動、物産販売（2023年：東京V、水戸、いわき、群馬、秋田、山形、清水、千葉にて実施）

復興支援・防災啓発事業

▶復興支援

・熊本プロスポーツ3クラブ共同イベント「RED!RED!RED!KUMAMOTO」による熊本地震復興支援募金
・球磨中央高校×山崎製パン×ロアッソ熊本「球磨人吉復興支援ランチパック・タルト」販売

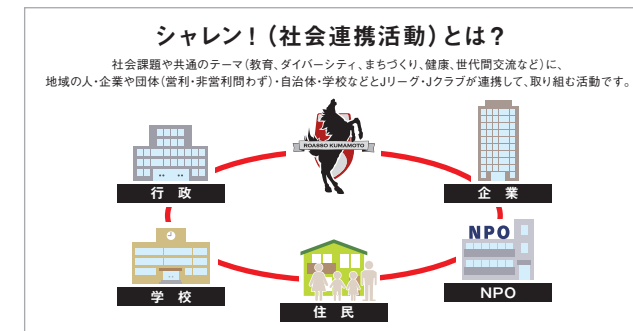
▶防災啓発

・熊本県ハザードマップ、防災メール周知協力
・菊陽町総合防災マップの町民への周知協力
・秋の全国火災予防週間周知協力



シャレン！（社会連携活動）

Jリーグでは、社会課題や共通のテーマ（教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など）に、地域の人・企業や団体（営利・非営利問わず）・自治体・学校などと連携して取り組む活動のことを『シャレン！』と称し、力を入れています。当クラブにおいても、Jリーグとともに社会連携活動に取り組んでいます。熊本県内の自治体や企業と協同で様々な課題やテーマを掲げ、活動をおこなっており、Jリーグ及びロアッソ熊本はこれらの社会連携活動を通して、SDGsにも貢献することを目指しています。ここではこれらの活動の一部を紹介させていただきます。



▶熊本県、熊本市を中心とした県内自治体との連携

熊本県

・地域活性化・スポーツ振興等事業「スタジアム、熊本県民総合運動公園および県内各地でのサッカー教室、交流会」
・交流人口拡大事業「アウェイゲームでの熊本PRパンフレット等の配布」
・熊本県警察本部「ホームゲームでの薬物乱用防止、暴力団排除啓発活動」
・健康づくり推進事業「Come on! Walk! Roasso!!」

熊本市

・高齢者介護予防事業「ロアッソウェルネスプログラム」
・ワンウェイプラスチック削減・バイオマスプラスチック等利用促進事業「森のタンブラー」
・ホームゲームを活用した人権啓発事業「人権マッチ」
・虫歯予防事業「8020推進員のロアッソくんが小学校でフッ化物洗口のお手伝い」
・市街地整備・花畑広場活用事業「花畑遠足～ロアッソくんと遊ぼう」
・熊本市親善大使
・大木監督講演

御船町

・高齢者介護予防事業「介護予防・生活支援サポーター全体会」

大津町

・大津町運動公園他「指定管理者受託」

菊陽町

・ロアッソ熊本選手の菊陽町PR大使就任
・ロアッソ熊本応援協力店制度の実施

▶パートナー企業、地域団体、NPO他団体との連携

・平田機工様との子ども食堂支援事業「ホームゲームでのフードドライブの実施および食品贈呈」
・九州エネコ様との熊本市への図書費贈呈
・熊本トヨタ自動車様との県内小学校へのサッカーボール寄贈事業「1ゴールアシスト5」
・社会福祉法人熊本市共同募金会「赤い羽根共同募金支援」
・独立行政法人 国際協力機構・JICA九州との多文化共生への取り組み
・「ホームゲームへの熊本県在住外国人招待、多文化共生ブースや海外料理の出店」
・環境省九州地方事務所との「阿蘇草原再生」「熱中症対策」に関する連携活動の実施



アカデミー ～価値ある選手と優れた人材を生み出す～



ACADEMY PHILOSOPHY

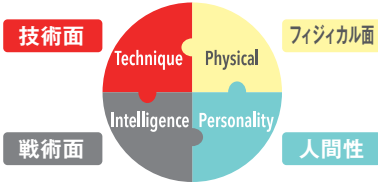
サッカー選手として、ひとりの人間として、常にポジティブな態度で行動、決断できる「自立した個」を育成する
サッカー選手としての成長を目指し努力することが、人としての成長に繋がり、サッカーを通じて世の中の大切なことを学ぶことができる。

サッカーの普及活動を通じ、地域と連携、協力しながら将来性豊かな人材を育成する
サッカーの持つ楽しさを知ってもらい、熊本のサッカー人口の裾野を広げ、生涯スポーツの普及に努める。

ACADEMY PLAY STYLE

攻守において、主導権を握ってプレーする
常に自分の100%でプレーし、最後まで諦めない(勝利を目指す)
積極的かつ献身的にプレーし、チームのためにハードワークする

個の育成を図っていくために個別育成計画(I D P)をユースからジュニアまでの全選手に対して実施。また、ストレッチ(飛び級) & 統合を積極的に取り入れ、カテゴリー間の連携をより強めて選手育成強化を図っています。



上手く・賢く・タフに
Technical・Clever・Tough

2023アカデミー試合結果(2023年2月～2024年1月)

ユース

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績	備 考
1	高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ2023九州	2023年4月2日～2023年11月26日	九州各地	優勝	プリンスリーグ1部昇格決定
2	高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ2023熊本1部	2023年4月9日～2023年12月9日	県内各地	7位	
3	2023Jユースリーグ 第30回Jリーグユース選手権	2023年4月16日～2023年12月31日	九州各地	暫定2位	
4	KYFA 2023年度 第34回九州クラブユース(U-18)サッカー選手権大会	2023年6月3日～2023年6月10日	九州各地	準優勝	第47回日本クラブユースサッカー選手権大会 出場権獲得
5	第47回日本クラブユースサッカー選手権大会	2023年7月23日～2023年8月2日	群馬県	予選リーグEグループ3位	

個人(代表・トレセン)

選手名	活動名	会 場	期 間	備 考
神代 慶人	U-16日本代表/第50回モンテギュー国際大会	フランス	2023年3月28日～2023年4月12日	
	U-16日本代表/インターナショナルドリームカップ2023 JAPAN	福島県・Jヴィレッジ	2023年5月29日～2023年6月4日	
	U-17日本代表/第25回国際ユースサッカーin新潟	新潟県	2023年9月12日～2023年9月18日	大会得点王
	2023年「燃ゆる感動がごしま国体 特別国民体育大会」熊本県サッカー少年男子	鹿児島県	2023年10月12日	
上村 朋生	JFA育成年代応援プロジェクト JFAアディダスDREAM ROAD スペイン ラーリーグレアル・ソシエダ短期留学	スペイン	2023年11月20日～2023年12月3日	
堤 隼誠				
山口 空飛				
高村 颯太	2023年「燃ゆる感動がごしま国体 特別国民体育大会」熊本県サッカー少年男子	鹿児島県	2023年10月12日	
前川 晟真				
迎田 洸				
元松 蒼太				



ジュニアユース・U-15A

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績	備 考
1	高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2023九州	2023年3月5日～2023年10月15日	九州各地	9位	
2	堺整形外科杯2023 KYFA 第38回九州クラブユース(U-15)サッカー選手権大会	2023年6月24日～2023年7月9日	九州各地	9位	2023JCYインテァーシティトリムカップ(U-15)WEST 出場権獲得
3	2023JCYインテァーシティトリムカップ(U-15)WEST	2023年8月11日～2023年8月13日	大阪府	8位	
4	高円宮杯 JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会 九州予選	2023年11月10日～2023年11月18日	大分県	九州第4代表決定グループ1位	高円宮杯 JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会 出場権獲得
5	高円宮杯 JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会	2023年12月16日～2023年12月27日	群馬県	ベスト32	

ジュニアユース・U-15B

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績
1	2022年度第17回九州クラブユース(U-13)サッカー大会	2023年3月4日～2023年3月5日	鹿児島県	優勝
2	2023JリーグU-14 サザンクロスB	2023年3月21日～2023年12月3日	九州各地	暫定2位

個人(代表・トレセン)

選手名	活動名	会 場	期 間
長井 京志郎	九州トレセンU-13ファイナル	熊本県・JFAアカデミー宇城	2023年2月25日～2023年2月26日
	JFAナショナルGKキャンプ	千葉県・JFA夢フィールド	2023年3月24日～2023年3月26日
	JFAエリートプログラムU-4トレーニングキャンプ	福島県・Jヴィレッジ	2023年6月28日～2023年7月2日
	JFAナショナルGKキャンプ	福島県・Jヴィレッジ	2023年10月6日～2023年10月8日
川内 健	2023ナショナルトレセンU-14後期	福島県・Jヴィレッジ	2023年11月23日～2023年11月26日
	九州トレセンU-13ファイナル	熊本県・JFAアカデミー宇城	2023年2月25日～2023年2月26日
	2023ナショナルトレセンU-14前期	大阪府・J-GREEN堺	2023年5月18日～2023年5月21日
	2023ナショナルトレセンU-14後期	福島県・Jヴィレッジ	2023年11月23日～2023年11月26日
木山 陸	九州トレセンU-13ファイナル	熊本県・JFAアカデミー宇城	2023年2月25日～2023年2月26日
	2023ナショナルトレセンU-14前期	大阪府・J-GREEN堺	2023年5月18日～2023年5月21日
首藤 優来	2023ナショナルトレセンU-14後期	福島県・Jヴィレッジ	2023年11月23日～2023年11月26日



ジュニアユース・U-15C

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績	備 考
1	高円宮杯 JFA U-13サッカーリーグ2023九州	2023年4月22日～2023年11月26日	九州各地	3位	
2	KFA第18回熊本県クラブユースU-13サッカー大会	2023年11月25日～2023年12月3日	県内各地	準優勝	2023年度第18回九州クラブユース(U-13)サッカー大会出場権獲得

個人(代表・トレセン)

選手名	活動名	会 場	期 間
大賀 陸	JFAエリートプログラムU-13トレーニングキャンプ	大阪府・J-GREEN堺	2023年6月28日～2023年7月2日
西 輝純	JFAエリートプログラムフューチャートレーニングキャンプ	大阪府・J-GREEN堺	2023年9月13日～2023年9月17日
藏原 聡次郎	2023ナショナルトレセンU-13後期	静岡県・時之橋 裾野グラウンド	2023年11月23日～2023年11月26日
原武 大和			

ジュニアユース・阿蘇A

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績
1	高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2023熊本3部A	2023年3月4日～2023年11月5日	県内各地	3位
2	KFA第38回熊本県クラブユースサッカー選手権(U-15)大会	2023年5月27日～2023年6月10日	県内各地	ベスト30
3	KFA第33回熊本県クラブユースU-14サッカー大会	2023年12月10日～2024年1月20日	県内各地	グループリーグ4位



ジュニアユース・阿蘇B

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績
1	高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2023熊本4部菊池阿蘇	2023年4月30日～2023年11月4日	阿蘇郡・菊池郡	前期6位、後期5位

ジュニアユース・人吉A

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績
1	高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2023熊本2部B	2023年3月12日～2023年10月29日	県内各地	7位
2	KFA第38回熊本県クラブユースサッカー選手権(U-15)大会	2023年5月27日～2023年6月10日	県内各地	ベスト30
3	KFA第33回熊本県クラブユースU-14サッカー大会	2023年12月10日～2024年1月20日	県内各地	グループリーグ3位



ジュニアユース・人吉B

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績
1	高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2023熊本4部人吉球磨水俣芦北A		県内各地	前期4位、後期4位
2	KFA第18回熊本県クラブユースU-13サッカー大会	2023年11月25日～2023年12月3日	県内各地	ベスト16

ジュニア

戦績

NO	大会名	期 間	会 場	最終成績	備考
1	KYFA2023フジバnCUP第54回九州U-12サッカー大会	2023年3月11日～2023年3月12日	福岡県	優勝	U-12
2	第12回九州地域ジュニア(U-10)サッカーフェスティバル	2023年3月18日	熊本県	ベスト8	U-10
3	JA全農杯全国小学生選抜サッカーIN九州 兼 KYFA第29回九州U-11サッカー大会in鹿児島	2023年3月25日～2023年3月26日	鹿児島県	優勝	U-11
4	チビリンピック 2023 JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会	2023年5月3日～2023年5月5日	神奈川県	グループリーグ4位	U-12
5	第49回熊日学童オリンピックサッカー大会	2023年6月3日～2023年6月18日	県内各地	優勝	U-10
6	スーパースポーツゼビオカップKFA第13回熊本県U-10少年サッカー(8人制)大会	2023年9月2日～2023年9月16日	県内各地	Dパート優勝	U-10
7	JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会 熊本県大会	2023年11月3日～2023年11月23日	県内各地	3位	U-12
8	KFA第45回熊本県少年サッカー・新人大会(田嶋杯) U-11熊本県大会兼第22回スポーツハヤカワカップ	2023年12月2日～2023年12月17日	県内各地	優勝	U-11
9	KFA第54回熊本県少年サッカー選手権大会(大谷杯)	2024年1月20日～2024年2月10日	県内各地	ベスト8	



神代慶人選手、トップチーム昇格

ロアッソ熊本アカデミーは、「価値ある選手と優れた人材を生み出す」ことを目標にしています。若年層からの一貫指導を行い、トップチーム及びインターナショナルで活躍できる選手になるように、ロアッソ熊本独自の特色あるチームカラーを身に付け、県民に愛され親しまれる将来性豊かな選手の育成を目指しています。2024シーズンより当クラブ ユース所属の神代慶人選手がプロ契約を締結し、トップチームでプレーすることとなりました。ユース在籍中の選手とのプロ契約は、前年トップ昇格を果たした道脇豊選手に次いで2人目、ロアッソ熊本ジュニア出身選手としては史上初となります。



くましろう けいと
神代 慶人

(2024年1月31日現在)

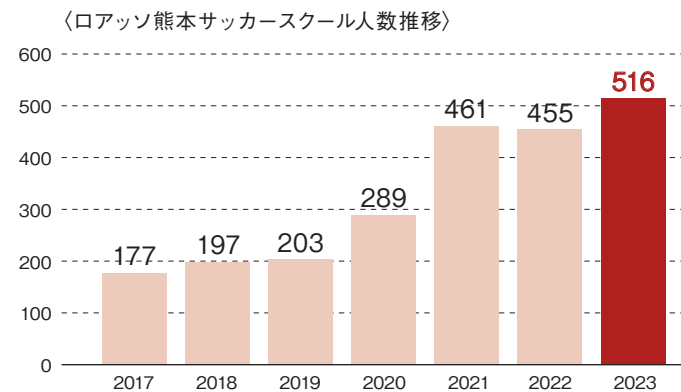
【ポジション】FW
【生年月日】2007年10月25日(16歳)
【身長/体重】178cm/70kg
【出身】熊本県熊本市

【サッカー歴】
第二さくらスポーツクラブ
ロアッソ熊本ジュニア
ロアッソ熊本ジュニアユース
ロアッソ熊本ユース(※東海大学付属熊本星翔高校1年在学中)

【代表歴】
2023年 U-17日本代表(第25回国際ユースサッカーin新潟)
2023年 U-16日本代表(第50回モンテギュー国際大会、インターナショナルドリームカップ2023JAPAN)
2022年 U-15日本代表
【その他】
2023年11月 育成年代応援プロジェクトJFAアディダス DREAM ROAD第1弾(スペイン・レアル・ソシエダ短期留学)



サッカーを通じて、夢を持つことの大切さ、サッカーの楽しさを伝えることを目的として活動しています。これらの活動を行うことで、様々な運動やスポーツ本来が持ち合せている楽しさや素晴らしさと共に、仲間と力を合わせる喜び、考えることの面白さなどを知り、心身共に健全な発達を促しながら「生涯スポーツの普及」に努めてまいります。



熊本市を中心に多くのコースで、子どもたちが元気いっぱいサッカーに取り組んでいます。初めてサッカーに出会う子どももスキルアップを目指す子どももみんなが笑顔で楽しめる環境を提供しています。またサッカーを通じて仲間の大切さや規律を守ること、失敗をおそれずチャレンジする勇気を育んでいます。「なでしこスクール」「ゴールキーパースクール」「大人のサッカースクール」など特色のあるコースもありロアッソファミリーみんなが楽しく活動しています。

サッカー教室

実施回数 年間 **51** 回

パートナー企業や自治体、サッカー協会と連携し県内各地で開催し、アカデミーコーチやトップチーム選手が指導したり一緒にプレーしています。サッカーの経験の有無を問わずみんなが楽しみ、思い出に残るサッカー教室を行なっています。

キッズキャラバン

訪問回数 **65** 園 **174** 回

普及コーチが県内各地の幼稚園、保育園を訪問して行うスポーツ指導プログラムです。元気に楽しく身体を動かす事が大好きな子どもに育ってほしいという想いで活動しています。



翔馬寮

～最高の食事で大きく育つユース選手たち～

ユース選手たち12人が生活する翔馬寮。高校3年間で寮で過ごす中で、選手や保護者にとって心配なことは、食事を中心とした環境です。クラブとしても、寮の「食事」にこだわり、食事によって選手たちが大きく育つことに重きを置きました。そこで、今年度から美味しく栄養バランスの摂れたアスリート食をサポートできる会社と提携し、ロアッソファミリーの仲間としてお迎えしました。

食事の提供は、寮母さん他3名のスタッフ体制で、試合や練習の時間によって都度メニューを考え、消化の負担にならない食事を提供。栄養のバランスは色を意識し5色揃うようにしています。アスリートは運動量が多いため、タンパク質が不足しないように小まめに提供し、糖質にも配慮しています。選手たちの食事に対する満足度は高く、毎食楽しみにしているようです。食事が変わってからは筋肉量が増え、トレーニング中の疲労度が軽減しています。食事によって寮生の身体は逞しくなり、着実に変化が見られています。

また、ユースコーチたちは日替わりで選手たちと寝食を共にし、コミュニケーションを図り、規律正しい生活の指導をしています。

選手たちにはサッカーだけではなく、共同生活を通して人としても成長して欲しいと願っています。



大津町体育施設等の指定管理業務について

一般社団法人ロアッソ熊本スポーツクラブでは、2023年4月、株式会社ルネサンスを代表企業とするグループ「大津つなぐプロジェクト」(以下、当グループ)の一員として、大津町が公募した「大津町体育施設等の指定管理」に関し、指定管理者として選定されました。

当グループは、全国でスポーツクラブを運営する企業、地元大津町の総合型地域スポーツクラブ、全国のスポーツ施設・公園等で高い技術力で芝生等を管理する企業、多くの施設維持管理・清掃管理実績を有する企業、プロスポーツクラブ・ロアッソ熊本で構成しています。それぞれが持つ実績、技術を活かし、大津町運動公園をはじめとする施設の管理運営を行い、多様化するニーズに対応し町民の皆様の健康やスポーツ環境の充実化に寄与して参ります。ロアッソ熊本は、施設の特徴を活かしたスポーツイベント開催等による町内及び県内外の方々の施設利用者数の向上を図りつつ、発展著しい大津町の地域振興に貢献して参ります。ロアッソ熊本が届けられる熱や感動、サッカー・スポーツの普及、選手育成や健康促進活動を通じた新たなコミュニティの創出を目指し、町民の皆様の生活の充実感や誇りに繋げて参ります。

□指定期間:2023年4月1日から2028年3月31日まで(5年間)

□管理対象施設(大津町内体育施設13施設)

- ・大津町運動公園(5施設)
- ・大津町市民グラウンド
- ・杉水公園
- ・大津町武道館
- ・高尾野公園
- ・大津町市民テニスコート
- ・昭和園テニスコート
- ・大津町菊阿体育館
- ・大津町山村広場

□グループ構成概要団体

共同企業体名: 大津つなぐプロジェクト

構成企業:

株式会社ルネサンス

NPO法人クラブおおづ

株式会社東洋グリーン

株式会社グッドスタッフ

一般社団法人ロアッソ熊本スポーツクラブ



ROASSO KUMAMOTO 2024 OFFICIAL PARTNER

オフィシャル トップ パートナー



オフィシャル パートナー



(2024年1月31日現在)